

# 「台本型敬語表現練習」の実践を通じた指導

—高等専門学校の国語科における試み—

本 橋 明 子

## 一 はじめに

敬語指導については、平成21年3月に告示された高等学校学習指導要領の「国語」で、唯一の必修科目となった「国語総合」の「内容の取扱い」において、以下のように書かれている。

### 3 内容の取扱い

(2) 内容のA（引用者注：話すこと・聞くこと）に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。

イ 口語のきまり、言葉遣い、敬語の用法などについて、必要に応じて扱うこと。

一方、平成11年3月に告示された現行版学習指導要領は、下記の通りである。

### 3 内容の取扱い

(5) 内容の〔言語事項〕については、次の事項に配慮するものとする。

イ エ（引用者注：文語のきまり、訓読のきまりなどを理解すること）については、読むことの指導に即して行う程度とすること。なお、口語のきまり、言葉遣い、敬語の用法などについても、必要に応じて扱うこと。

平成11年版の学習指導要領と対照すると、平成21年版では敬語学習が「話すこと・聞くことに関する指導」の中で示されたのは明らかである。これは、平成19年2月に文化審議会国語分科会から答申された「敬語の指針」に「答申は、敬語がコミュニケーションを円滑に行い、確かな人間関係を築いていくために欠かせないものであるという立場」と改めて位置付けられた影響を受けている。また、花田修一が指摘しているように、同年11月に中央教育審議会の初等中等教育分科会から発表された「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ」において、敬語の「改善の基本方針」が「敬語の指導については、人間関係を円滑にし、日常の言語生活を豊かにするため、相手や場に応じた言葉遣いが適切にできるようにすることを重視する。」と報告されてもいる<sup>(1)</sup>。

以上から、今後の敬語学習は、学習指導要領における変更点を踏まえた上で、日常生活において人

間関係を円滑にするために、話すことや聞くことを中心に据えた実践的な練習を通じて行われるべきである。本稿では、実際に起こりうる場面を想定した敬語指導実践を通じて、一考察を行う。

## 二 先行研究及び先行実践と課題

### （一）先行研究—森岡健二

上述したように、敬語が日常生活におけるコミュニケーションを重視している見解は、近年頻繁に見られるようになったが、それ以前でも言及されている先行研究がある。それが森岡健二の研究である。

森岡は「敬語教育を外語に対する教育であると規定すれば、系統的、組織的、体系的にカリキュラムを組んで教室で教えるということは、余り意味がない。（中略）学校という生活環境全体がすなわち教育の場であって、その時その場の個人の行動をとらえて指導していくべきもの」と指摘している<sup>(2)</sup>。具体的には、学校における生徒の生活場面を以下のように区分している。なお、便宜上記号を付けた。

A 授業 B 休み時間（放課後）C クラブ活動 D 訪問者（学校外の人）に対する応待（ママ）

D に関しては高学年にのみ必要と限定しているが、特にBとCに関して「これが敬語教育の重要な実践の場であることは確かであろう。」とし、さらに、「敬語行動の指導については、（中略）もともと外語としての特質をもつ言語行動のことであるから、場面を手がかりにしなければ、その効果が上らない。内語教育のように、系統的・組織的に段階を踏んで進めていくわけにはいかない」と言及している<sup>(3)</sup>。しかし、「敬語は（中略）日本語独特のものであるから、国語科としても、これを取り上げる必要がある。」と述べ、国語科の目標は、「日本語における敬語というものに気づかせ、生徒たちの日ごろの言語行動を知的に反省し整理させるとともに、間違った敬語の用法を矯める」点だとしており、各校種の概要をまとめている。以下に大要を示す。

小学校低学年…あいさつ語・丁寧語を教え、学校生活の実際の場面でしつける。

小学校中高学年…美化語・尊敬語・謙譲語の使い方を教え、必要に応じて使えるようにする。

中学校…尊敬語・謙譲語・美化語・丁寧語のそれぞれの特質と用語及びその用法を概説する。

高等学校…中学校での整理をさらに徹底させ、英語などと比較して日本語独自の敬語の特質やその歴史に触れる。

その上で、「国語科における敬語教育は（中略）知識の整理という性格をもち、高学年になればなるほど、現実の敬語行動に結びつきにくい。やはり、学校の生活環境全体が敬語教育の事実上の場であると考えるべきである」とまとめている<sup>(4)</sup>。

森岡の考えは、当時から敬語が日常において習得されるべきものだという認識を持っていた点が特に注目に値する。また、敬語を実生活で用いるだけにとどまらず、国語科において生徒各自が日ごろの言語行動を振り返る点を目標に据え、小学校から高等学校までの長期的な敬語学習の概要をまとめたのも先駆的な見解である。

しかし、学年が上がるにつれて、敬語教育が現実と乖離していると指摘した点は、高等学校国語科における敬語教育の可能性を狭めることにもつながりかねず、考慮の余地が残されていると考えられる。例えば、森岡がまとめた各校種の概要では、中学校と高等学校は知識の整理のみにとどまっているが、高校受験や大学受験、就職試験対策の一環として面接練習などの実践を踏まえた敬語学習を行うことは、国語科においても十分可能であろう。

## （二）先行実践—村田勇司

次に、近年の先行実践として村田勇司の実践を取り上げる。村田は「出来る生徒」ほど、古典文法の敬語法の知識に引かれて誤った敬語運用を行う傾向があると指摘した上で、「高校生が間違いやすい敬語運用を正す指導」を実践し、その趣旨を、「古典の知識をそのまま現代語の運用に応用することには注意が必要であることに気づかせ、正しい表現を心掛ける姿勢と知識を身につけさせること」としている<sup>(5)</sup>。

全2時間の中で、第1時に「敬語法という観点から、古語と現代語との関連性を認識」し、第2時に「『申す』という語を取り上げ、具体的な誤用例なども参照しながら、この語を含む表現の正しい用法を学習する」という計画である<sup>(6)</sup>。特に第2時では、国語辞典と古語辞典を用いて「申し出る」と「申し出づ」をそれぞれ調べ、謙譲の意味の有無を確認する活動や「敬語の指針」で正しい用法を確認する活動が盛り込まれている。

村田実践は、古語と現代語における敬語表現の共通点と相違点を2種類の辞書を用いて調べながらまとめる、という活動的な実践であり、花田修一にも「平安敬語と現代敬語を通して『敬語の変遷や用例』などに気づかせ、考えさせるというのは、言語文化としての敬語知識を身につけるだけではなく、これからの敬語を考えていく上でも高校生にとっては価値のある学習である」と評価されている<sup>(7)</sup>。確かに、「古典」で学習する古典文法と中学校の「国語」で学習する現代語文法に共通する敬語法を同時に教える機会は少ないため、村田実践は敬語法の知識を改めて整理する点においては非常に有益だ。しかし、全2時間の本実践を通じてだけでは、「敬語の指針」を用いているにも関わらず、指針で明言された「コミュニケーションを円滑に行い、確かな人間関係を築いていくために欠かせないものである」という敬語本来の特質を生かしきれていない。そのため、知識としてまとめたこの実践後に、日常生活でも用いられるような実践練習が必要だったと判断できる。

## （三）課題

森岡の場合は、学年が上がるにつれて敬語教育が現実の行動と乖離していると指摘し、高等学校における敬語教育の可能性を狭める恐れがある点が問題である。そこで、高等学校国語科における実際の会話や面接練習などを踏まえた実践的な敬語学習が課題となる。村田の場合も、「コミュニケーションを円滑に行い、確かな人間関係を築いていくために欠かせないもの」という敬語本来の特質を生かしきれていないので、日常生活の場面を意識した敬語学習が課題として挙げられる。

そこで、高等学校国語科における敬語学習に今後必要なのは、現実に即した場面における実践的な口頭練習であると考えられる。それを実現するものとして、本来敬語が用いられるべき場面をシナリオにし、適切な表現に直すためのワークシートを考案した<sup>(8)</sup>。本稿では、そのワークシートを以下「台本型敬語表現練習」と称する。

### 三 「台本型敬語表現練習」の作成にあたって

「台本型敬語表現練習」における場面を設定するにあたり、長崎県教育委員会が昭和 59 年 9 月に実施した「ことばに関する調査」を参照した<sup>(9)</sup>。これによると、調査当時親が高校生の子供に敬語を教える機会が一番多いのが、「目上の人に対して（先生を含む）」であり、次いで「電話での応対」「依頼のとき」と続く。また、その際に教えていることばとしては、「目上に対する敬語」、「あいさつのことば」、「返事の仕方」、「依頼（お願いします、～してください。）」、「語尾をはっきりと言う（～です）」が挙げられている。これらは、家庭における指導だけでなく実際に使用することで習慣化する上では、調査自体が 25 年前のものであることを考慮すると、現在の敬語教育実践の有用性に乏しいとする見方もある。しかし、これらの敬語は今日においても平生から用いられる重要な表現であることに変わりはない。そこで、「台本型敬語表現練習」にこれらの敬語を盛り込み、使用する場を設けることにする。

従って、先生や目上の人に対して「依頼する場面」と「電話で応対する場面」が中心に設定されており、「あいさつ」、「返事」、「依頼」、「語尾」に留意しながら会話を行うことができるものが、「台本型敬語表現練習」として相応しいと考えられる。以下、それを用いた授業実践について説明する。

### 四 「台本型敬語表現練習」を用いた敬語指導実践

#### （一）学級観

本実践は筆者の勤務校である高等専門学校の 1 年生 2 クラスと 2 年生 2 クラスの計 155 名に対して行った。実施科目はそれぞれ「国語Ⅰ」「国語Ⅱ」である<sup>(10)</sup>。年間指導計画の内容が終了した 3 学期に実践した。校種の特性上、各クラスとも男子の人数が極めて多く、ロールプレイなどの実演を非常に好む学生がいる一方で、人前で話すことが苦手な一部の学生もいる。とはいえ、なるべく全員にロールプレイを披露させたいが時間の制限もあるので、ロールプレイを行った後に敬語表現を用いる場面のシナリオを書かせることで、全員の敬語表現の定着を目指した。

#### （二）学習の目標

授業中の言語と日常言語を結び付けるために、身近な場面での敬語の必要性に気付き、各自の言葉遣いを見直すと共に、実践を通じて習得する。その上で、敬語を書く練習を通して更なる定着を図ることが目標である。

学習目標は以下の 3 点である。

- 1 「台本型敬語表現練習」を通じて、日常生活における敬語表現の必要性に気付く、日頃の自分自身の言葉遣いを見直す。
- 2 ロールプレイの実践を通じて敬語表現の練習をし、それを習得する。
- 3 敬語表現を用いる場面のシナリオを書き、実演することで幅広い敬語表現を身に付ける。

### （三）学習の展開

本実践は全4時間を設定した。各時間の学習の目標と主たる指導内容を以下に紹介する。

#### 【第1時】

第1時では、敬語に関する認識調査と日常生活における敬語表現の必要性に気付かせることを目標とする。主な指導事項は以下の点である。

- 1 敬語に関するアンケートを行う。
- 2 「台本型敬語表現練習」を用いて、該当部分を適切な敬語表現に直す。
- 3 ロールプレイを通じて、自分が直した敬語表現の確認をする。

敬語に関するアンケートでは、学生の「敬語の指針」に対する認識の度合いや今までの敬語学習を調査するために次の4点を質問した。なお、質問の後に続けて活動を示したものもある。

- A 敬語の分類法を知っているか。（知っていれば書かせる。）
- B 敬語の分類法が変わることを知っているか。
- C 何分類から何分類に変わるか知っているか。（知っていれば書かせる。）
- D 今まで学校で学習した敬語学習の中で、実生活に役立っているものはあるか。（あれば具体的に書かせる。）

このアンケート結果は以下の通りである。

- A 敬語の分類法を知っているか。  
 知っている 約46% 71名（1年生35名、2年生36名。以下同じ）  
 知らない 約54% 84名（37名、47名）
- B 敬語の分類法が変わることを知っているか。  
 知っている 約1% 1名（2年生1名）  
 知らない 約99% 154名（72名、82名）
- C 何分類から何分類に変わるか知っているか。  
 知っている 約1% 1名（2年生1名）  
 知らない 約99% 154名（72名、82名）
- D 今まで学校で学習した敬語学習の中で、実生活に役立っているものはあるか。  
 ある 約23% 36名（20名、16名）  
 ない 約77% 119名（52名、67名）

Aについては、155名中71名が「知っている」と答えたものの、「尊敬語・謙譲語・丁寧語」と答えられたのは46名(22名, 24名), その中でも漢字で正確に書けたのは26名(11名, 15名)にとどまった。

BとCでは、155名中1名が知っていただけであった。いかに認知度が低いかが分かる。

Dに関しては、「ある」と答えた36名中26名(16名, 10名)が「先生や先輩との会話」を挙げ、3名(2年生のみ)が「高校受験の面接練習」と答えた。その他には、「職場体験」や「ネット上のマナー」が挙げられた。ここから、部活動などの日常会話を通じて敬語表現を身につけたと感じている学生はいるものの、国語科の授業が役に立ったと感じている学生が実質いない、という結果が出た。

続いて、先に考案したワークシート「台本型敬語表現練習」の実践を行った。まずは各自で空欄を埋めさせ、全体で答えあわせを行う前にペアを組みロールプレイをさせた。時間の都合でロールプレイを全員に披露してもらうことはできなかったが、よく練習させることを心掛けた。

### 【第2時】

第2時では、繰り返し練習することで敬語の定着を図ることを目標とする。主な指導事項は以下の通りである。

- 1 代表者のロールプレイを見ながら答えを確認する。
- 2 適切な敬語を用いてもう一度ロールプレイを行う。
- 3 再度「台本型敬語表現練習」の同じ問題を解く。

前時に続いて、代表者にクラス全体の前でロールプレイを実演してもらいながら答えを確認していった。今回は適切な敬語表現を用いているのであれば正解としたので、もし違う答えがあれば積極的に発言してもらうようにした。なお、「台本型敬語表現練習」の各空欄を1点配点とし、合計20点満点として点数化させた。

一通り答えを確認した後、もう一度ペアとロールプレイを行い、敬語表現の定着を目指した。その後再び「台本型敬語表現練習」の空欄補充を解かせ、前回よりどれだけ点数が伸びたかを見た。その結果は以下の通りとなった。

点数が変わらなかった者	約3%	5名(1名, 4名)
1点から5点伸びた者	約39%	61名(30名, 31名)
6点から10点伸びた者	約34%	53名(26名, 27名)
11点から15点伸びた者	約12%	19名(10名, 9名)
16点から20点伸びた者	約12%	19名(9名, 10名)

この結果から、約97%の学生が1回目より点数が上がり、より適切な敬語表現を用いられるようになった点が指摘できる。

## 【第3時】

第3時では、前回までに身につけた敬語表現を基に自由にシナリオを書くことを目標とする。主な指導事項は以下の通りである。

- 1 学校における敬語表現を必要とする場面を設定し、シナリオを書く。
- 2 ペアとのロールプレイを通して、適切な敬語表現を用いているか確認する。

授業の冒頭に敬語の一覧表を資料として配布した後、「先生と面談をする場面」を設定し、敬語を10語以上用いることを条件に自由にシナリオを書かせた。その一例を紹介する。

<シナリオ作成>（2年生女子。傍線筆者。）

先生：よし、面談を始めるぞ。

生徒：はい。

先生：お母様はまだいらっしゃらないのか。

生徒：申し訳ございません。もう少しで参ります。

先生：この成績をお母様はご存じなのか？

生徒：いえ、まだ伝えておりません。

母：遅れて申し訳ございません。

先生：どうぞ、お座りください。急にお呼び立て致しまして、こちらこそ申し訳ございません。

母：今回伺ったのはどのようなご用件でしょうか。

先生：この成績表をご覧になって頂きたく、お呼び立て致しました。

母：拝見させていただきます。

ありがとうございます。家族で話し合ってきます。

先生：そうしてください。また次週もお越しになってください。

母：是非伺いたいと思います。それでは失礼致します。

生徒：ありがとうございます。

例は、「台本型敬語表現練習」の対一という枠を越えて、新たに生徒の母親役を設定し、三者間におけるシナリオを書いた点に注目したい。ほとんどが先生と母親における対一の会話に偏っているが、先生対生徒の関係だけでなく先生対保護者という新しい関係性の中で敬語表現を考察した点から、学習前よりも用いる敬語表現が増えていると考えられる。具体的には、「台本型敬語表現練習」では用いなかった「拝見する」「ご覧になって」など、新たな敬語表現を用いている点から、その幅の広がり認識できる。

但し、「今回伺ったのはどのようなご用件でしょうか。」の一文は、誤用である。共に先生に対する敬語なのだが、母親自身の行動を主語にしている前半と先生に対する質問の後半を混同しているからだ。このように、用いる敬語の種類が増えた一方で、まだ完璧に使用できているとは言えないので、

継続的な敬語学習が今後必要である。

#### 【第4時】

第4時では、それまでの総括として、他人の敬語表現も参考にしながら敬語表現の幅を広げること为目标とする。主たる指導事項は以下の通りである。

- 1 自分で書いたシナリオとペアが書いたシナリオでロールプレイをする。
- 2 代表者のロールプレイを見て、自分の敬語表現を振り返る。
- 3 授業を終えたアンケートを実施する。

前時に自分とペアが書いたオリジナルのシナリオを用いて、2通りのロールプレイをすることで、多様な敬語表現に触れさせるようにした。その後、代表者のロールプレイを見て、さらに他の敬語表現に接するようにした。

最後のアンケートでは、A授業は難しかったか。B今回の授業内容は日常生活に役に立つと思うか。（具体的にどのような点が役に立つと思うか、もしくは役に立たないと思うか、を書かせる。）について質問した。結果は以下の通りになった。

A 授業は難しかったか。

はい 約51% 79名（41名, 38名） いいえ 約48% 74名（31名, 43名）

B 今回の授業内容は日常生活に役に立つと思うか。

はい 約66.5% 103名（48名, 55名）

いいえ 約32.5% 50名（24名, 26名） ※無記入 2名（2年生2名）

この結果より、1年生の方が2年生よりも難しく感じている人数が多いことが分かる。具体的に役に立つ点は、「日常生活で役に立つ」が56名（35名, 21名）、「将来的に役に立つ」が38名（10名, 28名）と大多数を占めた。一方、役に立たない点の主なものは、「普段はこのような表現をしない」「日常では使わない」が20名（12名, 8名）、「実際はうまく言えない」「すぐに忘れる」が9名（4名, 5名）と続いた。

以上から、本実践について約66%の学生が「役に立つ」と感じており、約32%の学生が「役に立たない」と感じているという結果になった。その中でも、約13%にあたる20名が「日常生活において役に立たない」とコメントをしている点には特に着目すべきである。

## 五 成果と課題

成果としては、次の三点を挙げたい。まず、本実践を通じて、日常生活における敬語の必要性に気付かせ、日頃の言葉遣いを見直す機会を与えることができた点だ。また、繰り返し練習することで、ほとんどの学生が学習前よりも適切な敬語表現を身につけることができた点である。さらに、単なる



暗記に終始せず、自分のシナリオを書いた後にそれとペアのシナリオを演じることで、敬語表現の幅を広げることができた点である。

しかし、課題も三点残された。一点目は、時間があまり取れずクラス全体でロールプレイを見せ合う時間が全く無かった点である。今回は代表者にロールプレイを披露してもらったが、1クラス40名前後いるクラス全体での交流が非常に少なかったのは、今後の課題である。授業後に全員が書いたシナリオを配布するなど、クラス全体が交流する方法を講じていきたい。

二点目は、アンケート結果から約66%の学生が「役に立つ」と感じたものの、約32%は「役に立たない」と答えた点である。これは完全に「日常生活に役に立たない」と記した者は約13%の20名だけだったとはいえ、割合として高いと言わざるを得ない。「実際の場面ではこのように言わない」など、教室と日常生活の乖離を感じている学生がいたので、これを改善するためにも「台本型敬語表現練習」の更なる検討が必要であろう。しかし、「教員に対して敬語を使う必要がない」と書いた学生もあり、彼らに敬語表現の必要性を説明しても、彼らの平素の感覚から日常生活との乖離を感じてしまうという矛盾が生じることになる。この点に関しては、学習者に後輩から敬語を用いずに話しかけられたらどのように感じるかを考えさせることで、適切な表現を指導しつつも最低限丁寧語は用いるようにさせるべきと、考えている。

三点目は、「忘れてしまう」「今回の授業だけでは身に付かない」という学生からの懸念もあり、単発で敬語学習を実践しても定着しないことが改めて明確化した点である。年間指導計画に予め盛り込むなど、1年間乃至3年間に渡る長期的な目標を立てることが今後は必要だ。その際、丁寧語のみの練習から尊敬語や謙譲語も交えた練習へと徐々に敬語表現を複雑化し、敬意の対象も学校内の身近な存在から地域社会の人へと意識させていくことも忘れてはならないと考える。

これらの課題を踏まえ、今後は更に日常言語との乖離が少ない「台本型敬語表現練習」を作成し、教室内的における実践的な敬語学習を目指していきたい。

## 六 おわりに

本実践の冒頭で実施したアンケート結果より、一部の学生が先生や先輩との会話や入試の面接練習が実生活に役立ったと感じている以外は、敬語学習が全く役立っていない、という結果が出た。一部の学生は普段使わないので学習する意味が無いと感じていたが、敬語表現は「敬語の指針」に明示されたように、「コミュニケーションを円滑に行い、確かな人間関係を築いていくために欠かせないもの」であり、学習する価値は高い。本実践で最初から適切な敬語表現を用いることができた学生は少なかったが、ほとんどの学生が繰り返し練習することで、適切な敬語表現を身につけることができたので、国語科において実践的な敬語学習を継続的に行うことは、非常に重要である。このように、日常の場面を想定した敬語表現練習は、今後ますます重要な役割を果たすと考えられる。

注(1) 花田修一 「まえがき」(『心を育てる敬語指導—心ある言葉の使い手をめざして—』花田修一編著 明治図

書 平成 20 年 7 月)

- (2) 森岡健二 「敬語と教育」(『行動の中の敬語 敬語講座第 7 巻』林四郎、南不二男編 明治書院 昭和 48 年 12 月)
- (3) 注(2)に同じ。
- (4) 注(2)に同じ。
- (5) 村田勇司 「高校生が間違いやすい敬語運用を正す指導」(『心を育てる敬語指導一心ある言葉の使い手をめざして一』花田修一編著 明治図書 平成 20 年 7 月)
- (6) 注(5)に同じ。
- (7) 花田修一 「国語科を中心としながら全教育活動で取り組む」(『心を育てる敬語指導一心ある言葉の使い手をめざして一』花田修一編著 明治図書 平成 20 年 7 月)
- (8) ワークシートの実例を【資料】に示す。
- (9) 渡辺富美雄 「学校教育における敬語の指導」(『国語教育基本論文集成 第 22 巻 国語科言語教育論(4)文法教育論と指導研究』飛田多喜雄・野地潤家監修 明治図書 平成 5 年)
- (10) 「国語Ⅰ」「国語Ⅱ」とも、主に現代文分野の表現領域を扱う学校設定科目である。2 単位。

#### 【資料】 「台本型敬語表現練習」の実例

<先生とのやりとり>

A 先生：おはよう。

B 学生：A 先生、おはよう。

A 先生：どうした？ 何か用か？

B 学生：あの、このプリントを忘れたから、コピーしたいんですけど、A 先生コピーとってくださいない？

A 先生：それは無理だな。

↓

A 先生：おはよう。

B 学生：A 先生、( )

A 先生：どうした？ 何か用か？

B 学生：あの、このプリントを忘れたので、( )、A 先生 ( ) ?

A 先生：それは無理だな。

<事務員とのやりとり>

A 学生 : あの、ちょっといいですか？

B 事務員：はい？ 何でしょうか？

A 学生 : お母さんが△△の振り込み期限を聞いてきてって言ってて、来たんですけど

B 事務員：お母さんがそのように言ってたのですね？ △△の締切りは 2 月 16 日ですよ。

A 学生 : あ、そうっすか。あざーす。じゃ。

↓

A 学生 : あの、( ) ?

B 事務員：はい？ 何でしょうか？

A 学生 : ( ) が△△の振り込み期限を ( )

B 事務員：( ) がそのように ( ) ? △△の締切りは 2 月 16 日ですよ。

A 学生：あ、( )

## &lt;来客とのやりとり&gt;

A来客：ちょっと、いいですか？

B学生：はい？ 何っすか？

A来客：C先生の研究室はどこですか？

B学生：C先生の研究室は…めっちゃ遠いんで、そこまで連れて行ってあげます。

A来客：よろしくです。

↓

A来客：( )

B学生：はい？ ( )

A来客：C先生の研究室は ( ) ?

B学生：C先生の研究室は… ( ), ( )

A来客：( )

## &lt;電話応対&gt;

A学生：はい、こちら□□部部室です。2年のAです。何か用っすか？

B先生：そこにC先生居ない？

A学生：C先生なら、先程まで居たけど、どっか行っちゃいました。

B先生：はい、わかりました。ありがとう。では。

A学生：はい、ではでは。

↓

A学生：はい、こちら□□部部室です。2年のAです。( ) ?

B先生：そこにC先生 ( ) ?

A学生：C先生なら、先程まで ( ), ( )。

B先生：はい、わかりました。ありがとう。では。

A学生：はい、( )。